

高松障害保健福祉圏地域自立支援協議会主催により

「地域で暮らす、を支えるために - 医療的ケアが必要な方の生活 - 」が実施されました

平成24年3月11日(日)、かがわ総合リハビリテーション福祉センター2階研修室にて、高松障害保健福祉圏地域自立支援協議会(以下、自立支援協議会)主催の講演会を実施しました。

医療的ケアとは、日常生活に必要な医療的生活援助行為のことで、経管栄養(胃ろうなど)やたんの吸引、導尿に関わるケアなどがそれにあたります。

自立支援協議会では、この医療的ケアが必要な方たちの障害福祉サービス利用等の課題(短期入所などの受け皿と医療的ケアを担える人材の不足など)について、昨年4月からプロジェクトチームを作って検討を重ねています。支援センターたかまつも、このプロジェクトに参加しており、今回、昨年9月に同じタイトルで実施した「障害者生活支援センターたかまつ講演会」の内容を、さらに参加者の方たちと深めることができればと考え、この講演会を企画し、実施しました。

当日は、講師に東大阪市から「地域に広げ！医療的ケア連絡会」事務局の辻井道代氏と娘さんの彩音氏を迎え、「no fun no life(楽しくなくっちゃ人生じゃない!)」のタイトルで、医療的ケアが必要な彩音さんの日常と、東大阪支援学校を中心に地域の福祉関係者とともに活動を続けている連絡会の活動状況についてご講演をいただきました。

次に、香川県健康福祉部障害福祉課課長補佐・多田和照氏と主任西川有佐子氏より、4月から始まる介護職員等による喀たん吸引等(たんの吸引・経管栄養)についての制度説明をいただくとともに、医療的ケアプロジェクトのメンバーである、香川県立高松養護学校高等部進路指導主事・藤田明教諭からプロジェクトの活動状況についてもご報告をさせていただきました。



雨の降る寒い一日でしたが、養護学校の保護者の方や先生方、病院関係や訪問看護ステーション、居宅介護事業所の方々など、33名の参加をいただきました。参加して下さったみなさま、ほんとうにありがとうございました。

来年度以降も、支援センターたかまつはこの課題について、プロジェクトの活動を通して考えていきたいと思っています。

当日のアンケートに寄せられた感想について、一部をご紹介します。

事業所さんや行政機関の人たちの中にもたくさん考えてくださっている人がいることにびっくりしました。とても勉強になりありがとうございました。(家族)

善通寺養護学校に通っています。辻井さん、藤田先生の講演を聞き1つずつ小さい歩みを持ちながら進みたいです(家族)

重い障害をもって地域で生活している方、家族、お母さんの思いを聞かせてもらって、介護・福祉はもちろんのこと、地域の仲間として協力できる場所を見つけたいと思いました(施設職員関係者)

来年度のたん吸引等の実施について、お母さん側からの意見が聞けてよかったです。色々な人が医ケアを法律的に認められて出来たら良いと思っていましたが、辻井さんの「医ケア(医療的ケアのこと)の安売りをされたくない」という言葉が心に残りました。(相談支援従事者)